

シンポジウム

# 外国にルーツをもつ子どもと デジタル教科書のあり方を考える

ICTを活用した学習支援と教育保障



2014年5月10日(土)

14:00 ~ 17:00

(13:30受付開始)

キャンパスプラザ京都

(大学コンソーシアム京都) 2Fホール  
近鉄「京都」駅、JR「京都」駅 徒歩5分

参加費 無料

申込み [samakatangpinoy@gmail.com](mailto:samakatangpinoy@gmail.com)

お名前、御所属と共にメールでお申込みください。

外国にルーツをもち、学習のための日本語に困難を抱える子どもたちの数は、日本国籍・外国籍を問わず増えています。2014年度から日本語を「特別の教育課程」として指導できることになりましたが、リソース(人・時間・財政)の不足は切実です。適切な学びと進学の手助けを得られないまま成長し社会に出ることは、本人にとっても、人口減少期を迎える日本社会にとっても大きな損失です。

視覚や読みの困難については、関係者の運動と尽力により、支援ツールとしての電子書籍技術を活用して誰もが「読める」教科書がすでに提供されています。外国ルーツの子どもたちについては、どうでしょうか？

デジタル教科書導入への準備が進む中、子どもたちが「障害その他の特性の有無にかかわらず」(教科書バリアフリー法 第一条)十分な教育の機会を得られるものであってほしいと願います。学校の内外で外国ルーツの子どもに関わる方々に積極的にご参加いただき、ICTを活用した教育保障についての政策提言に向けた一歩としたいと思います。

共催：トヨタ財団国際助成プログラム企画

「フィリピン系の子どもたちの未来を切り拓くグローバルな教育支援モデルの構築」

立命館大学人間科学研究所 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究—対人支援における大学と社会実践の連携—」

立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)研究プログラム

「電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究」(IRIS)

# プログラム

14:00～14:10 趣旨説明

14:10～14:50 第一部

定住ニューカマーの子どもたちと学校をめぐる最新の動向

内田晴子（トヨタ財団国際助成プログラム 企画代表者）  
原めぐみ（大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程）  
安里和晃（京都大学文学研究科 特任准教授）



14:50～15:00 休憩

15:00～17:00 第二部 パネルディスカッション

外国にルーツをもつ子どもとデジタル教科書のあり方を考える

「問題提起」

小澤 亘（立命館大学 産業社会学部教授、立命館大学DAISY研究会代表）

「著作権法37条について 図書館ガイドライン作成の経緯から」

常世田 良（立命館大学 文学部 教授）

「DAISY版教科書提供の現状と課題」

久保田 文（日本ライトハウス情報文化センター 製作部長）

「デジタル教科書の現状と将来」

川瀬 徹（東京書籍株式会社 ICT事業本部 営業部長）

コメンテーター

石川 准（静岡県立大学 国際関係学部 教授）

河村 宏（NPO法人 支援技術開発機構(ATDO)副理事長、  
元DAISYコンソーシアム会長）

司会 内田 晴子

質疑応答



デザイン：千野エリカ

挿絵：立命館大学DAISY研究会が開催した「小学生との手作りデジタル絵本作成イベント」にて  
京都市内日本語教室の子どもたちが描いた作品